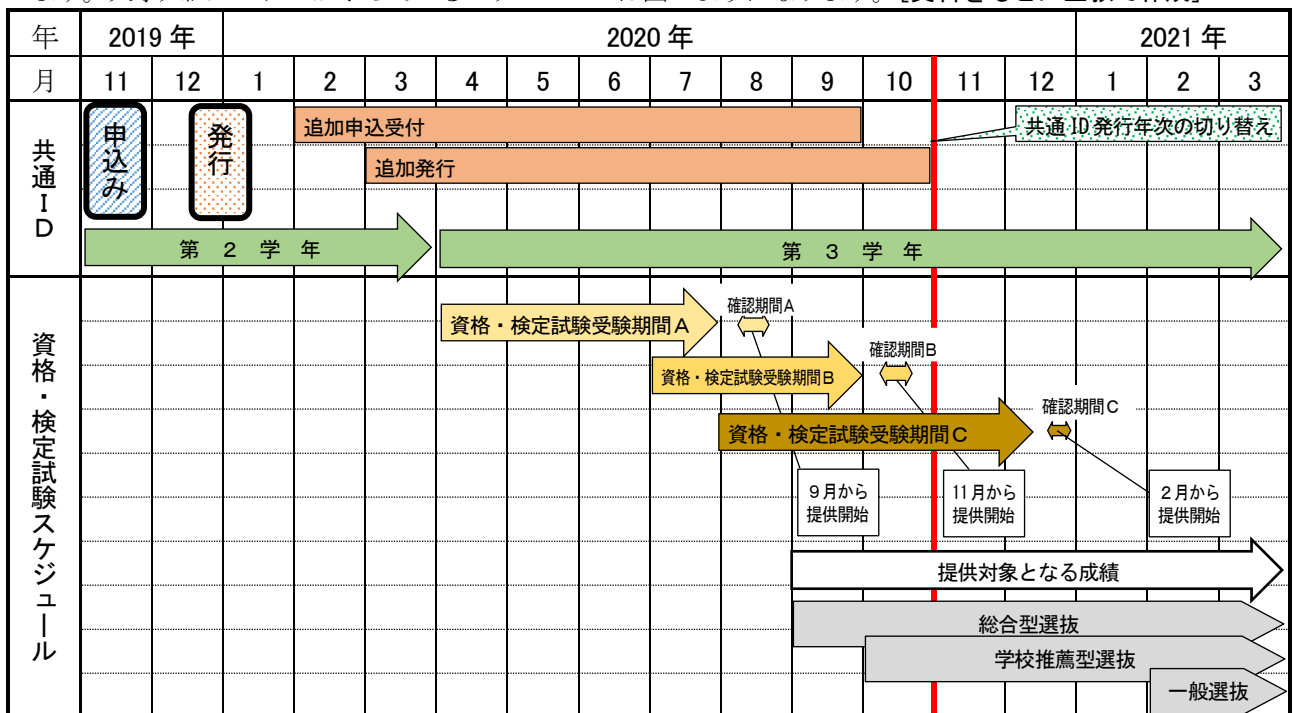


「大学入学共通テスト」の見切り発車は許せない！

このまま英語民間検定を利用するのか!?

文科省は、2021年度から「大学入学共通テスト」を開始するために『大学入学共通テスト』等実施事業』として50億円(新規)を概算要求に計上しています。その内容は、「思考力・判断力・表現力を問うための作問体制充実」「記述式問題に対応した試験情報システムの改修」「記述式問題に関する採点業務の実施」、特に英語民間検定利用については『大学入試英語成績提供システム』の構築、運用・保守」「共通ID発行関連業務」などとされています。大学入試センターが示しているスケジュールは図のようになります。[資料をもとに全教で作成]



高校2年生の「共通ID」の申込みが11月1日～14日となっています(追加申込は翌年1月27日～9月10日)。その後、2020年4月からおこなわれる「資格・検定試験」を受験し、1・2回目のうちどちらかを大学入試に使います。(受験は1回だけでもかまわない)。仮に3回以上受験しても使えるのは早い順に2回目までです。

いま、一番大きい問題は、「共通ID」申込みまで2か月を切っているにもかかわらず、「大学入試英語成績提供システム」の全体像が固まっていないという点です。英語の研究者が導入反対の署名を提起したり、全国高校長協会も文科省に「不安を解消する」よう申し入れたり、実施が近づくほど「拙速な導入をすべきではない」との世論が高まっています。

8月24日、埼玉知事選の応援に来た柴山文科大臣にプラカード(右)を示し「柴山やめろ」とヤジを飛ばした大学生が排除されるという事件が起きました。そして、8月30日には文科省前抗議行動が行われ200人が集まって、「大学入試の改悪やめろ」「子どもの未来に責任を持って」「国民脅す大臣いらねえ」「業者じゃなくて生徒の声を聞け」「民間業者に丸投げするな」など、コールしました。引き続き、9月6日(金)19時から文科省前抗議行動を行うそうです。

香港の民主化を求めるデモの若者のように、日本の若者も声を上げ始めています。こうした若者と連帯して、拙速な英語民間検定の入試への利用を中止に追い込むことがもとめられています。

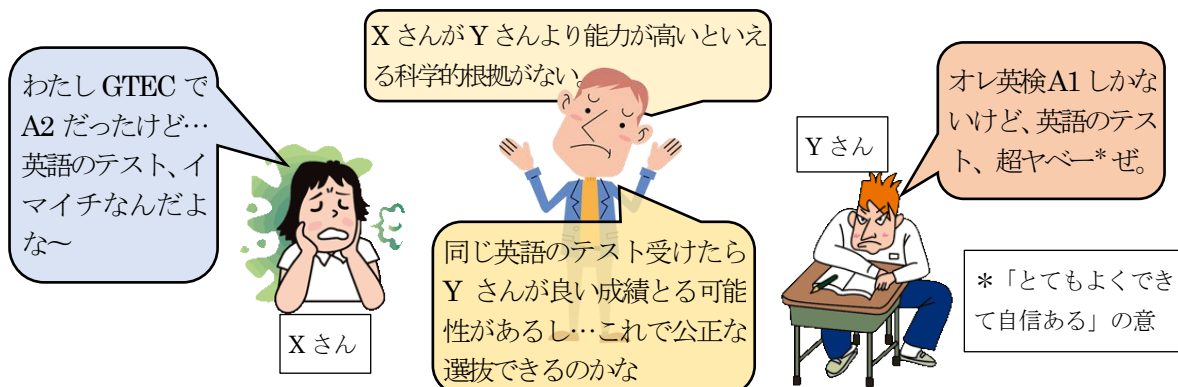
**めちゃくちゃな大学入試改革
英語民間試験、国語記述式
即時撤回せよ！！
柴山は辞任せよ！！
若者の声を聞け！！**

サイレントマジョリティは賛成なんかじゃない

あらためて、英語民間検定を入試に使うことの問題点を整理します。

1. 「各資格・検定試験と CEFR との対照表」に科学的な裏づけがない。

(1) 構成概念（測る能力）が異なる試験の成績を比べることはできない。



(2) CEFR（ヨーロッパ言語参照枠）が誤用されている。

CEFR は多様な国や地域で多様な母語をもち多様な教育を受けた人たちの第二言語能力を大まかに評価するための目安であり、「国際標準規格」ではない。CEFR は完成しておらず、改善が進んでいる。2021 年度入試から日本で用いられようとしているものは、見直し前の古いバージョンである。

(3) 対照表は、各試験団体が行った（自己申告した）当該試験のスコアと CEFR の 6 段階の「対応づけ」をつなぎ合わせたものである。第三者による科学的な検証が行われておらず、信用できない。

各試験団体が行った CEFR との対応づけを検証したとされる「英語の資格・検定試験と CEFR との対応関係に関する作業部会」（文部科学省内に設置）は、審査される側の民間試験団体の代表者（5 名）と民間試験の開発や対応づけに携わった研究者（3 名）から成り、客観的かつ科学的な検証をする資格と能力のある第三者を含んでいない。

(4) スコアのダンピング（対応づけの下方修正）が起こる可能性があり、すでに前兆がある。

HELLO

当社の検定は他社に比べて A2 を取りやすく「対応づけの変更」しました。ぜひお使いください。

(5) GTEC の CBT タイプや TOEIC は、1 つの試験で A1 レベルから C1 レベルまで判定できるとしているが、限られた問題数でそれを行うのは無理がある。

2. 「大学入学英語成績提供システム」参加要件は公表ベース（公表していれば OK）であり、試験の質に関する実質的な審査は行われていない。また、試験の運営は各民間試験団体に丸投げされており、第三者が監視・監査する制度がない。

- (1) 学習指導要領との整合性が乏しい民間試験が含まれている。
- (2) 採点の質が担保されていない。
- (3) 障害等のある受験生への合理的配慮が不十分。
- (4) トラブルや不正への対応が不透明
- (5) 受験対策で利益を得る試験団体がある。

3. 全員がトラブルなく受験できる目処が立たず、混乱・不安が広がっている。

- (1) 会場や人手の確保が難航している。
- (2) 高校会場の利用により、公正性・公平性が低下し、高校教員の負担が重くなる。

4. 合否判定にまったく、あるいは、最小限の影響しか与えない民間試験の使い方をしながら、全員に受験を課す国立大学が多く、受験生は不合理な経済的・時間的・精神的負担を強いられる。

活用方法		大学数	大学名	活用方法	大学数	大学名
①出願資格として活用	CEFR A2以上	25	埼玉、千葉、東京、東京医科歯科、東京外語ほか	④一定水準以上の成績で大学入学共通テストの「英語」を満点とみなす	3	東京藝術(音楽)、福井(国際地域学部)、広島
	CEFR A1以上	13	帯広畜産、宮城教育、横浜国立(経営学部等)ほか	⑤高校が作成する証明書等の併用	8	埼玉、東京、東京医科歯科、一橋、浜松医科、名古屋ほか
	CEFR 基準の定めなし	3	奈良女子、岡山、広島	⑥高得点利用(大学入学共通テストの英語の「得点」と比較)	1	富山(人文学部、理学部、工学部)
	CEFR 基準は未定	3	旭川医科、東京海洋、滋賀医科	⑦活用するが、現時点で活用方法を明示していない	8	北見工業、山形、宇都宮、東京学芸、山梨、奈良教育ほか
②点数化して加点(大学入学共通テストの成績に加点)		33	北海道教育、室蘭工業、弘前、岩手、秋田、福島ほか	⑧活用しない	4	北海道、東北、筑波技術(保健科学部)、京都工芸繊維
③出願資格及び点数化して加点		7	小樽商科、横浜国立(教育学部等)、信州(英語コース)ほか	<2019年5月13日現在 文科省調べ>		

5. 受験機会の不平等

- (1) 共通テストに求められる受験機会の均等が保証されていない。
- (2) 非課税世帯や離島・へき地の受験生の負担を軽減するための「例外措置」が機能しない。

6. 4技能やスピーキング能力が向上する確証がない

緊急のとりにくみ提起

情勢や「共通ID」申込みまでの残された時間の少なさを考えると、じっくりとりくむ行動を提起することはできません。そのため、次のようなとりにくみをおこないます。多くのみなさんのご理解とご協力をお願いします。

1、個人署名(4ページを参照してください)

署名集約は、第1次を10月末日とし、集約した分を柴山昌彦文科大臣に提出します。

その後も、引き続き署名にとりにくみ、12月初めに集約し、教育全国署名集約集会の際の文科省要請等で提出します。

さらに、2020年3月に最終提出をおこないます。最後の最後まで粘り強く中止を求める声を集め、文科省に届けます。(E-mailで全教に直接送っていただくことも可能です)

2、教育委員会や校長会、PTA、議会、議員との懇談・要請

国会議員との懇談にもとりにくみます。

3、教育全国署名などとの連携

全国各地でとりにくまれている教育全国署名の街頭宣伝や学習会などでたくさんの人に問題点を知らせます

4、各地でおこなわれる抗議行動などへの積極的な参加

Twitter (#入試改革に反対する学生の会、#サイレントマジョリティは賛成なんかじゃない、#0830文科省前抗議、など)にさまざまな情報が寄せられています。それらの情報を拡散したり、各地でおこなわれる(であろう)抗議行動に参加したり、高校生や大学生たちに呼びかけたり、多様なとりにくみを追求します。

2019年9月4日 編集/全教教文推進委員会 発行/全日本教職員組合(全教)

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3階 TEL 03-5211-0123/FAX 03-5211-0124

E-mail : zenkyo@educas.jp / URL <http://www.zenkyo.biz/>

文部科学大臣 柴山昌彦 様

**「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入試英語成績提供システムに
参加する資格・検定試験」の活用中止を求める要請書**

貴職におかれましては、すべての子どもの成長・発達を保障するゆきとどいた教育の実現に向けてご尽力されていることに、心より敬意を表します。

「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入試英語成績提供システムに参加する資格・検定試験」（以下、「資格・検定試験」）については、現高校2年生が対象となるため、高校では情報不足や大学の取扱いの違いなどがあり不安と混乱がますます広がっています。2020年4月から「資格・検定試験」の受験が始まり、受験に向けた「共通ID」発行申込みが2019年11月1日から始まることを考えると、残された期間はあまりに短く、現時点で指摘されている問題が解消されないまま本番に突入するおそれが強くなっています。

「資格・検定試験」については、次のような問題点があると考えられます。

- ① 「資格・検定試験」の内容がまちまちで、「受験料負担や受験機会の公平性が確保されない」や「経済状況や地域的な格差に対する方策がない」、「障害のある受験生への配慮が十分とは言えない」、「受験生が安心して受けられる体制が整っていない」など、入試で最重要な公平性や公正性に関する疑問や不安がある
- ② 「受験生に求められる英語4技能とそれぞれの英語認定試験の目的や評価基準の相異」「複数の試験のスコアとCEFRとの対照」など、英語民間検定を入試で利用することそのものへの疑問があること
- ③ 「資格・検定試験」の質に関する実質的な審査がされておらず、試験の運営が「資格・検定試験実施団体」（民間検定試験団体）に丸投げされ、第三者が監視・監査する制度がない
- ④ 会場や人手の確保が難航しているとの情報もあり、高校会場の利用等が行われれば、公正・公平が担保されるか懸念があり、また会場準備等で高校教員の負担が生じる
- ⑤ 合否判定に使わない、または、最小限の影響しか与えない使い方でありながら全員に受験を課す国立大学が多く、受験生は不合理な経済的・時間的・精神的負担を強いられる

大学入学共通テストを含む大学入試「改革」についての不安や不信感が高まり、大学入試そのものへの信頼性が大きく損なわれている現状をふまえ、文科省にはこのような不安や問題を払拭することが求められています。

つきましては、以下の点について要請します。

記

1. 多くの課題がある「資格・検定試験」の拙速な導入をおこなわず、少なくとも2021年度大学入試における活用を中止すること。
2. 「英語4技能」測定に固執した入試のあり方を見直すこと。
3. 営利を目的とする民間業者に公教育を委ねる「教育の市場化」を見直し、国は責任をもって教育条件整備に努め、公平・公正な大学入試制度とすること。

以 上

<ひとこと>

住 所:

名 前: